

甲州牛増産に向けた効率的採卵サイクルの確立 (H29~H31)

研究機関: 酪農試験場

背景

甲州牛の生産拡大が課題



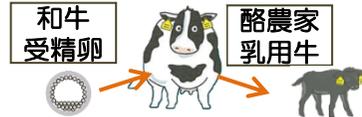
甲州牛
H27年度
出荷頭数
384頭

生産基盤の弱体化が全国的に進行

繁殖牛頭数	平成22年	平成27年
全国	684千頭	→580千頭
山梨県	520頭	→490頭

全国平均	平成22年	平成27年
子牛価格	361千円	→693千円

受精卵移植の活用により和牛子牛を増産

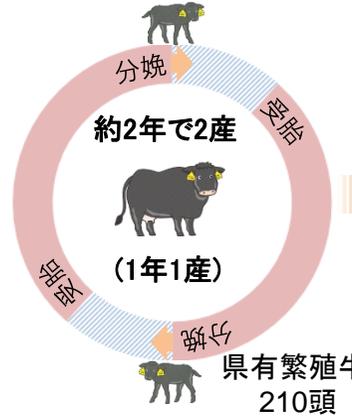


◇供給される受精卵が不足している
↓
◇受精卵を生産する供卵牛の増頭が必要

繁殖牛すべてから採卵することが困難

繁殖牛通常サイクル

繁殖牛は子牛を順次生産していく必要がある



供卵牛サイクル

採卵すると分娩間隔が延長し、子牛生産が半減



期待される成果

○採卵に伴う分娩間隔延長の改善
→県有繁殖牛の効率的活用
採卵頭数の増加
現状の年間延べ採卵頭数40頭を70頭まで増頭させる。

◎県内供給される受精卵の増加
・和牛子牛販売による酪農経営の改善

◎甲州牛の生産基盤の拡充・強化
・県内産肥育素牛の確保推進

【受精卵75%増産→甲州牛50増頭/年】

☆甲州牛の生産拡大

試験内容

採卵後の分娩間隔等を短縮し、子牛生産と受精卵生産を両立させる技術を確認する

①分娩後の早期採卵技術の確立 (H29~H31)

分娩後早期の黄体ホルモン製剤の投与が採卵成績に及ぼす効果について検証する。

- ・黄体ホルモン製剤の投与時期の検討
- ・初回排卵および黄体形成率、採卵成績等の調査

②採卵後の早期人工授精技術の確立 (H29~H31)

採卵直後からの定時人工授精(TAI)プログラム処置が分娩間隔に及ぼす効果について検証する。

- ・至適TAIプログラムの検討
- ・受胎率および子牛の生産状況の調査

